

# 技術・家庭科学習指導案

日 時 平成10年10月22日(木)  
生 徒 第1学年2組  
男子19名女子19名 計38名  
授業会場 木工室  
指 導 者 札幌市立北辰中学校  
教諭 山本 将司 竹下 哲哉

## 領域・題材

## 研究とのかかわり

木材加工・マガジンラックの製作

学習材を用いた課題解決的な学習は、教師の適切な支援と教科の特性を生かした生徒自らの「ものづくり」や「体験的な学習」によって構成される。目標は、「考える力と学びへの心」を育てることである。

## 領域・題材の目標と学習のねらい

本時の授業では、部品を組み立てる方法を考えさせ、実際に自分たちが選んだ接合材料で組み立てを行わせる。その結果について検討し、試行錯誤しながら次の加工への意識を深めさせたい。

木材は古くから使われてきた材料である。特にわが国では地理、気候風土が木材資源を豊かにしていたため、住的要求を満たす有力な材料であった。従って、住居、建具、家具、道具という日常生活に密着したものとして今日に至っている。

教師一人では生徒一人ひとりに対し十分に対応することが難しく、また、構想を考えたり、製作を行う場合には、生徒一人ひとりの個人差に応じた指導も必要となってくる。2年生の選択教科の技術・家庭科でもチームティーチング(TT)を行っている。本時も生徒一人ひとりへの支援を充実するためにTTを組み、M・T(メイン)、S・T(サブ)が協力して授業を展開しようと考えた。2人の教師が生徒を指導、支援をすることによって生徒に目がいき届き効果が期待できる。

ここでは、生活に役立つ簡単な木製品の設計と製作を通して、木材及び木材加工についての関心を高め、創意・工夫しながら進んで製作しようとする意欲と、作品を完成させるまでの総合的能力を養いたい。実際の指導に当たっては、生活経験を生かしながら、使いやすさ、丈夫な構造、美しさを指導することに留意するとともに、特に、小学校の図画工作科との関係では、生徒は、木材を使用し作品を作成する中で、両刃のこぎりなどの工具も使用し、体験しているので違和感はないと思われる。

## 学習の全体計画(全体35時間 本時31/35)

